

令和6年度福岡県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

国語

言葉に関心をもち、複数の情報を整理して内容を正確に理解するとともに、言語活動を通して、根拠を明確にして自分の考えを適切に表現する学習をしましょう。

問題内容・得点状況等

一（１） 説明的な文章の問題

本文は、世界を変える新発見の多くがエラーの中から生み出されており、エラーを恐れずに学ぶことが大切だと述べている文章です。説明的な文章の内容や要旨を的確に捉えているかをみる問題となっています。得点率は62.6%でした。

問一は、空欄に入る語句を選ぶ問題です。文章全体と部分との関係に注意しながら内容を捉えることが大切です。

問二は、書き手の述べている内容を正しく読み取り、空欄に入る内容を文章中から指定された字数で抜き出す問題です。複数の情報を整理しながら適切な情報を得ることが大切です。

問三は、文章中の語句の説明として正しいものを選ぶ問題です。表現の効果に着目して内容を捉えることが大切です。

問四は、文章中の語句について、具体例に当たる部分を文章中から指定された字数で抜き出す問題です。文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることが大切です。

問五は、書き手の主張を正しく読み取り、空欄に入る内容を文章中から指定された字数で抜き出したり、指定された語句を用いて指定された字数で分かりやすくまとめたりする問題です。目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を捉えることが大切です。

説明的な文章では、文章の中心的な部分とそれを支える例示や引用などの付加的な部分、論理の展開などに注意して読むとともに、文章に表れている書き手のものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えをもち、表現する学習が大切です。

一（２） 主に語句・語彙や書写に関する問題

（１）の文章を読んで、興味をもった研究分野に関する読書活動をするという場面を想定して、語句・語彙や書写に関する知識を問う問題です。得点率は57.3%でした。

問一は、（１）の文章と（２）の資料を比較して、同じような状況を言い表している一文を抜き出す問題です。観点を明確にし、文章を比較するなどして、複数の情報を整理しながら内容を捉えることが大切です。

問二は、連文節における文節どうしの関係が同じものを選ぶ問題です。文の成分の順序や関係といった文の構成について正しく理解することが大切です。

問三は、漢字の読みを答える問題です。漢字について正しく理解することが大切です。

問四は、指定された意味の二字熟語になるように、空欄に当てはまる漢字を選ぶ問題です。漢字や語句について正しく理解することが大切です。

問五は、品詞が同じものを選ぶ問題です。単語の分類について正しく理解することが大切です。

問六は、漢字に表れている行書の特徴として正しいものを選ぶ問題です。

語句の量を増やし、語彙を豊かにするためには、日頃から読書に親しむとともに、国語辞典や漢和辞典などを活用して、語句の意味や使い方などを確認する学習が大切です。また、楷書とともに行書の基礎的な書き方について正しく理解する学習も大切です。

二 文学的な文章の問題

本文は、陸上部に所属する高校生の主人公が、部長を引き継ぎ、先輩の思いを受け止めながら決意を新たにしていく姿が描かれている文章です。文学的な文章における場面の展開、情景や人物の描写から、思考力、想像力、表現力をみる問題となっています。得点率は67.1%でした。

問一は、文章中の語句について内容を正しく読み取り、文章中から指定された字数で抜き出す問題です。場面の展開や登場人物の相互関係などについて、描写に注意して読むことが大切です。

問二は、登場人物の心情を読み取る手掛かりとなる文章中の表現について、指定された字数でまとめたり、文章中から指定された字数で抜き出したりする問題です。場面と場面、場面と描写を結び付けるなど、複数の情報を整理しながら登場人物の言動の意味を考えることが大切です。

問三は、文章中の描写に用いられている表現の技法を答えるとともに、登場人物の心情が表れた描写を文章中から指定された字数で抜き出す問題です。比喩などの表現の技法を理解し、表現の効果について、根拠を明確にして考えることが大切です。

問四は、文章中の一文が読者に印象付ける内容として正しいものを選ぶ問題です。表現の仕方が文章の内容を印象付ける上でどのような効果を上げているかを、根拠に基づいて判断し、その意味などについて考えることが大切です。

文学的な文章では、場面の展開、登場人物の言動や心情、情景描写、場面や登場人物の設定の仕方などに注意して読むとともに、表現の仕方や文章に表れているものの見方や考え方について、文章中の叙述を根拠にして自分の考えをもち、表現する学習が大切です。

三 古典の問題

本文は、『貞観政要』（『新釈漢文大系 第95巻 貞観政要（上）』所収）からの出題です。現代語訳を手掛かりとして古典の内容を理解する問題です。得点率は53.5%でした。

問一は、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題です。文語のきまりを知り、実際に声に出して音読することが大切です。

問二は、登場人物の会話の部分を抜き出す問題です。文章全体と部分との関係に注意しながら内容を捉えることが大切です。

問三は、登場人物の考えとして正しいものを選ぶ問題です。文章の種類を踏まえて、論理や物語の展開の仕方などを捉えることが大切です。

問四は、書き下し文を手掛かりに、返り点を付ける問題です。漢文の訓読の仕方を知り、実際に声に出して音読することが大切です。

問五は、本文についての会話文を手掛かりとして、空欄に入る語句を選んだり文章中から指定された字数で抜き出したりするとともに、空欄に入る内容を指定された字数でまとめる問題です。複数の情報を整理しながら登場人物の言動や物語の展開の意味を考えることが大切です。

古典では、特有のリズムを味わうとともに、表現の工夫や効果などに注意し、登場人物や書き手の思いなどを想像しながら、文章に表れているものの見方や考え方を捉える学習が大切です。

四 作文の問題

「18歳意識調査『第30回 一読む・書く一』詳細版」（日本財団 2020年10月30日）を基に、読書量を増やす取り組みについて考えるという場面を想定し、自分の考えを条件に従って具体的に述べる問題です。複数の情報から必要な情報をそれぞれ取り上げ、自分の考えと関連付けて、文章にまとめる力を総合的にみる問題です。得点率は69.4%でした。

日頃から、事実や事柄についての自分の考えを形成し、根拠を明確にしながら伝える学習や、資料を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりする学習を行うことが大切です。また、伝える相手や目的を意識して、自分の考えが効果的に伝わるように表現を工夫して書く学習も大切です。

〈まとめ〉

言語活動を通して思考し、判断したり、複数の資料から情報を関連付けて自分の考えを形成し、表現したりする問題を出題することで、社会生活で必要とされる思考力、判断力、表現力等を見ることができるようになりました。

全体の得点率は前年度より14.6ポイント上がり、65.6%でした。

文章の構造と内容を正確に把握した上での確かな言葉で簡潔にまとめて表現することや、知識を活用して思考・判断・表現することに課題がみられました。

日頃から、読書をするなどして言葉に関心をもち、複数の情報を整理して内容を正確に理解するとともに、言語活動を通して、自分の考えを形成し、根拠を明確にしながら考えを適切に表現する学習に取り組むことが大切です。

文章を読む際には、構成や展開、登場人物などの描写に注意して読むことが大切です。文章の中心的な部分と付加的な部分、事実や意見などを読み分けて、内容を的確に捉える必要があります。また、書いたり話したりする際には、自分の考えを効果的に伝えるために、どのような表現が適切であるかを常に考え、構成を工夫するよう意識することが大切です。

令和6年度福岡県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

数 学

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得し、それらを活用して問題を解決する力を身に付けましょう。

問題内容・得点状況等

1 全領域の基礎的・基本的な知識及び技能に関する問題

大問2から6の出題内容を踏まえて広い範囲から出題した、基礎的・基本的な知識及び技能を問う問題です。得点率は82.9%でした。

(1)は、正の数と負の数の四則計算、(2)は、1次式の計算、(3)は、平方根をふくむ四則計算の問題です。式の計算の順序や符号に注意しながら正確に計算する学習が大切です。

(4)は、反比例の式を用いて、 x の値に対応する y の値を求める問題です。反比例の関係を理解することが大切です。

(5)は、2次方程式を解く問題です。式を展開、移項して整理し、因数分解や2次方程式の解の公式を用いて解く学習が大切です。

(6)は、度数分布表から、相対度数を求める問題です。相対度数の意味を理解することが大切です。

(7)は、 y が x の2乗に比例する関数のグラフをかく問題です。 y が x の2乗に比例する関数のグラフの特徴を理解することが大切です。

(8)は、データをもとに、第3四分位数を求める問題です。データの活用に関する用語の意味を理解することが大切です。

(9)は、標本調査の結果から、母集団の数を推定する問題です。標本調査の意味や方法について理解することが大切です。

2 「データの活用」領域の確率に関する問題

不確定な事象の起こりやすさについて、確率を根拠として判断し説明する問題です。得点率は58.5%でした。

(1)は、樹形図または表を用いて場合の数を数え上げたり、余事象の考え方を用いたりして確率を求める問題です。

(2)は、ある事象の起こりやすさを、確率を根拠として説明する問題です。

不確定な事象の起こりやすさについて、直感的に予想を立てつつ、起こり得る全ての場合を順序よく整理して確率を求めたり、場合の数をもとにして得られる確率を用いて説明したりする学習が大切です。

3 「数と式」領域の文字式の利用に関する問題

連続する整数の性質について、文字式を用いて論理的に考察する問題です。得点率は48.0%でした。

- (1) は、会話文中の事象に即して、あてはまる数を求める問題です。
- (2) は、会話文中の事象に即して、あてはまる式を求めたり、その式を変形したものが表すことがらを選択したりする問題です。
- (3) は、予想が成り立つことを証明する問題です。
- (4) は、条件が変わった場合について、事象に即してあてはまる数を求めたり、適切な2つの数の組み合わせを選択したりする問題です。
- 様々な整数を文字式で表したり、文字式が表す意味を読み取ったりする学習が大切です。

4 「関数」領域の1次関数に関する問題

日常の場面について、1次関数を用いて考察し表現する問題です。得点率は51.2%でした。

- (1) は、与えられた条件から、1次関数の式を求め、 x の値に対応する y の値を求める問題です。
- (2) は、与えられた条件から、グラフが通る点の座標や傾きを、日常の場面と結び付けて読み取り、 x と y の関係を正しく表したグラフを選択する問題です。
- (3) は、1次関数の式を用いて、2直線の交点を求め、説明に適する値を求める問題です。

表、式、グラフを相互に関連付けて、事象を考察する学習が大切です。特に、2直線の交点の座標の意味や、変化の割合、傾きや切片などが示す値を、日常の場面と結び付けて考察することが大切です。

5 「図形」領域の平面図形に関する問題

平面図形について、論理的に考察し表現したり、図形を計量したりする問題です。得点率は32.8%でした。

- (1) は、作図の手順によってできる2点を選び、その手順によってできる図形がもつ性質を正しく述べているものを選ぶ問題です。
- (2) は、三角形の相似を証明する問題です。
- (3) は、円周角の定理の逆を用いて、1つの円周上にある4点を2組選ぶ問題です。
- (4) は、相似比や特別な直角三角形の辺の比などを活用して、2つの図形の面積の比を求める問題です。

図形の性質について、構想や見通しを立てた上で、三角形の合同条件や相似条件をもとに証明したり、証明したことを振り返って新たな性質を見いだしたりする学習が大切です。また、図形の中にある線分の長さや面積を求める際は、基本的な図形の性質や、図形の合同や相似に着目することが大切です。

6 「図形」領域の空間図形に関する問題

空間図形について、論理的に考察し表現したり、図形を計量したりする問題です。得点率は21.3%でした。

- (1) は、辺や面の位置関係から、条件にあう辺を答える問題です。

(2) は、空間図形の一部を平面図形として捉え、図形の性質を利用して線分の長さを求める問題です。

(3) は、空間図形に対する見方や考え方を働かせ、四角すいの体積を求める問題です。空間図形においては、図形を直感的に捉えた上で、論理的に考察する学習が大切です。特に、目的に応じて空間図形の一部を平面図形として捉えたり、空間図形を分割して既習の図形として捉えたりすることが大切です。また、見取図や展開図から図形の性質を読み取って空間図形のもつ性質を考察し表現することも大切です。

〈まとめ〉

全領域において、数量や図形などに関する基礎的・基本的な知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題しました。

全体の得点率は、前年度より3.2ポイント上がり、52.7%でした。

数量や図形などに関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に身に付け、それらを活用して論理的に考察し表現する学習に取り組むことが大切です。特に、数学的な見方や考え方を働かせ、数、式、図、表、グラフなどの数学的な表現を用いて、問題解決の過程を説明したり、条件を変えて考察したりするなど、発展的に学習に取り組むことが大切です。

令和6年度福岡県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

社 会

基礎的・基本的な知識や概念等の確実な定着と思考力・判断力・表現力を身に付ける学習を中心に取り組みましょう。

問題内容・得点状況等

1 古代から近代までの日本の歴史に関する問題

古代から近代までの政治、文化、経済に関する表をもとに、古代から近代までの歴史の大きな流れや各時代の特色について問う問題です。得点率は51.4%でした。

問1は、古代の文化の特色から、最も関わりのある人物を選ぶ問題です。

問2は、中世の経済に関するできごとについて、適切な語句を選ぶ問題です。

問3は、武家政権による支配に関するできごとを、年代順に並べる問題です。

問4は、幕藩体制による支配のしくみについて、適切な語句を選ぶ問題です。

問5は、立憲制国家について、適切な人物を選ぶ問題と、適切な語句を答える問題です。

問6は、開国が人々の生活に与えた影響について、適切な語句を選ぶ問題と、指定された語句を使い、説明する問題です。

歴史上のできごとや人物等について調べたり考えたりする際には、年表・地図・写真・統計・図表等の様々な資料を活用しながら、政治、経済、社会、文化等の側面から各時代の特色を明らかにし、わが国の歴史の大きな流れを捉える学習を進めることが大切です。

2 近現代の日本や世界の歴史に関する問題

20世紀以降のわが国と世界との関わりについて作成したカードをもとに、わが国の国際社会との関わりや人々のくらしの変化、環境問題への取り組みについて問う問題です。得点率は65.4%でした。

問1は、第一次世界大戦後にわが国において広がった民主主義を求める風潮について、適切な語句を答える問題です。

問2は、第二次世界大戦後のわが国の国際社会との関わりについて、資料から読み取れることをもとに、適切な語句を選ぶ問題です。

問3は、資料から読み取れることをもとに、高度経済成長期のわが国の人々のくらしの変化について説明する問題です。

問4は、わが国の環境問題への取り組みに関するできごとを、年代順に並べる問題です。

近現代の歴史の学習を進める際には、わが国の歴史に関わるできごとを、様々な資料を活用しながら世界の動きとともに捉えることや、現在とのつながりから捉えることが大切です。また、時期や年代に着目しながら、政治、産業、社会、文化等の側面から、学習した内容を比較したり関連付けたりし、学習を進めることが大切です。

3 世界の地理に関する問題

略地図や資料から、世界の各州の地域的特色について問う問題です。得点率は63.8%

でした。

問1は、大陸の位置とおもな経緯線を想起し、赤道と日本標準時子午線の交点を選ぶ問題です。

問2は、各州の人口、穀物生産量に関する資料から読み取れることをもとに、指定された州を選ぶ問題です。

問3は、指定された語句を使い、中国の経済の特色を説明する問題です。

問4は、アフリカ州に属する国について、おもな輸出品目の内訳に関する資料から読み取れることをもとに、適切な語句を答える問題と、適切な語句を選ぶ問題です。

問5は、産業や経済、EU加盟に関する資料から適切に情報を読み取り、指定された条件でヨーロッパ州の製造業の特色を説明する問題です。

自然環境や人々の生活、経済、文化等について、世界各州の違いに関心をもつことが大切です。地図や各種の統計資料を読み取り、比較したり関連付けたりし、世界各州の違いの要因を様々な面から考えることで、地域的特色を捉える学習を進めることが大切です。

4 日本の地理に関する問題

略地図や資料から、日本の諸地域の地域的特色について問う問題です。得点率は59.9%でした。

問1は、雨温図を読み取り、指定された都市の雨温図として適切なものを選ぶ問題です。

問2は、略地図で指定された都道府県に関する統計データとして適切なものを選ぶ問題です。

問3は、各地方の農業や工業に関する資料から読み取れることをもとに、指定された地方を選ぶ問題です。

問4は、人口、産業、交通に関する資料から適切に情報を読み取り、指定された条件で東北地方と九州地方に共通する産業と交通の特色を説明する問題です。

問5は、資料や写真から適切に情報を読み取り、指定された条件で北海道地方の農業の特色を説明する問題です。

各地域における自然環境と人々の生活のつながりについて理解を深めるとともに、地図や各種の統計資料を読み取り、それらに示された情報と知識とを結び付け、地域的特色を捉える学習を進めることが大切です。

5 現代の政治、経済、社会に関する問題

公民的分野に関するテーマについて、調べた内容の一部をまとめたカードをもとに、政治、経済のしくみ、現代社会の諸課題等の基礎的・基本的な知識や概念について問う問題です。得点率は61.7%でした。

問1は、日本国憲法における国民の義務について、適切な語句を答える問題です。

問2は、三権分立について、図から読み取れることをもとに、内閣を示すものと衆議院の解散を示すものを選ぶ問題です。

問3は、地方政治のしくみについて、図から読み取れることをもとに、指定された条件を踏まえて説明する問題です。

問4は、日本銀行や政府の金融政策と財政政策について、表から読み取れることをもとに、適切な語句を選ぶ問題です。

問5は、企業の経済活動について、図から読み取れることをもとに、指定された条件を踏まえて説明する問題と、適切な語句を答える問題です。

問6は、社会保障制度の特色や課題について、適切な語句を選ぶ問題と、資料から読み取れることをもとに指定された条件を踏まえて説明する問題です。

現代社会の諸課題が起こっている原因や影響を追究し、自分の考えを説明したり、他者と議論したりする活動を通して考えを深め、制度や仕組みの意義や働きを捉える学習を進めることが大切です。

6 現代社会の課題に関する問題

会話文と資料をもとに、海の豊かさについての世界的な課題とその解決に向けた身近にできる取り組みについて問う問題です。得点率は59.7%でした。

問1は、図から読み取れることをもとに、適切な語句を答える問題です。

問2は、資料から読み取れることをもとに、指定された条件で世界の漁業の現状と課題について説明する問題です。

問3は、資料から読み取れることをもとに、指定された条件で海洋汚染を解決するため、私たちが身近にできる取り組みの効果を説明する問題です。

広い視野で社会に関心をもち、地理的分野及び歴史的分野、公民的分野で学んだことを総合的に活用し、現代社会が抱える諸課題の解決に向けて、様々な資料を多面的・多角的に考察し、表現する学習を進めることが大切です。

〈まとめ〉

各分野にわたり、地図・統計・図表等様々な資料を提示し、基礎的・基本的な知識や概念、資料を活用する技能、これらの知識・技能を用いて思考・判断・表現する力を問う問題を出題しました。

全体の得点率は前年度より4.5ポイント上がり、60.0%でした。

基礎的・基本的な知識・技能を確実に定着させるとともに、日頃から様々な資料が示す意味（分布、推移、割合等）を読み取ること、複数の資料から読み取れることを関連付けて考察すること、考察したことを相手に分かりやすく適切に表現することを意識して、日々の学習に取り組むことが大切です。

令和6年度福岡県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

理 科

見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を整理し、分析して解釈するなど、科学的に探究する過程を通して、基礎的・基本的な知識・技能と科学的な思考力や表現力を身に付けましょう。

問題内容・得点状況等

1 生物領域に関する問題

セキツイ動物の5つの仲間の特徴に関する問題です。得点率は83.1%でした。

問1は、魚類を選ぶ問題です。

問2は、両生類の呼吸の仕方を問う問題です。

問3(1)は、両生類とハチュウ類の体表の特徴と、その違いから考えられることについての説明を完成させる問題です。(2)は、子のうまれ方について、胎生の特徴を問う問題です。

セキツイ動物を比較して共通点や相違点を見だし、特徴によって分類し、整理する学習が大切です。

2 生物領域に関する問題

植物の葉のつくりと光合成に関する問題です。得点率は66.1%でした。

問1は、実験で使用したエタノールのはたらきを問う問題です。

問2は、光合成が行われる場所がわかる葉の部分の組合せと、光合成に必要な条件がわかる葉の部分の組合せを問う問題です。

問3は、3本の試験管を用いて行った実験の条件を比較して、結果からわかることを問う問題です。

光合成に必要な物質や環境条件について、実験の条件を検討して実験を計画することや、実験の結果から光合成に影響する要因を考察する学習が大切です。

3 化学領域に関する問題

酸化と還元に関する問題です。得点率は69.6%でした。

問1は、ピンチコックでゴム管を閉じる理由を問う問題です。

問2は、加熱前の酸化銅の色を問う問題です。

問3は、金属がもつ共通の性質を問う問題です。

問4は、酸化銅と炭素を混ぜて加熱したときの化学変化を、化学反応式で表す問題です。金属の酸化物を還元する実験を行い、反応前後で物質の性質が変化することと原子の組合せを関連付けて理解する学習が大切です。

4 化学領域に関する問題

中和とイオンに関する問題です。得点率は53.7%でした。

問1は、塩酸の溶質の名称を問う問題です。

問2は、こまごめピペットを使用する際の留意点を説明する問題です。

問3は、塩酸と水酸化ナトリウム水溶液を混ぜ合わせて中性にするまでの、液中のイオンの種類と数をモデルで表す問題です。

問4は、作物の成長と土の性質の関係と、土壌の改良に利用されている化学変化を問う問題です。

酸性の水溶液とアルカリ性の水溶液を混ぜ合わせる実験を行い、中和反応によって水と塩が生成することをイオンのモデルと関連付けて理解する学習が大切です。

5 地学領域に関する問題

地層の重なりと過去の様子に関する問題です。得点率は、73.3%でした。

問1は、地層の重なり方の規則性を問う問題です。

問2は、地層に含まれる岩石の特徴を、流水による影響と関連付けて説明する問題です。

問3は、地層が堆積した当時の環境を示す化石の名称を問う問題です。

問4は、石灰岩とチャートにうすい塩酸をかけたときのようすの違いを問う問題です。

露頭の観察を行い、その観察記録をもとに地層のでき方を考察し、それぞれの層の特徴や含まれる化石をもとに、堆積した当時の環境を推定する学習が大切です。

6 地学領域に関する問題

天体の動きと見え方に関する問題です。得点率は、58.9%でした。

問1は、星の年周運動を問う問題です。

問2は、金星が輝いて見える理由を問う問題です。

問3は、金星の見える大きさが変化する理由を問う問題です。

問4は、金星の見える形と大きさが変化する理由を問う問題です。

星座の年周運動の観察を行い、観察記録を地球の公転や地軸の傾きと関連付けて理解する学習が大切です。また、天体シミュレーションソフトなどの金星の観察資料をもとに、金星の公転と見え方を関連付けて理解する学習が大切です。

7 物理領域に関する問題

力の大きさとばねののびに関する問題です。得点率は、45.4%でした。

問1は、変形したばねがもとに戻ろうとする性質を問う問題です。

問2は、同じ大きさの力を加えたときのばねののびの違いを、表から読み取る問題です。

問3は、ばねに加えた力の大きさとばねののびの関係を、表から読み取りグラフに表現する問題です。

問4は、2本の糸が物体を引く力を力の矢印で表現し、矢印の長さで表からばねののびを読み取る問題です。

ばねにおもりをつるしてばねののびを測定する実験を行い、測定結果をグラフに整理することで、力の大きさとばねののびの規則性を見だし、力の大きさとばねの変形の量を関連付けて理解する学習が大切です。

8 物理領域に関する問題

直列回路に関する問題です。得点率は、53.9%でした。

問1は、導体を問う問題です。

問2は、電圧計の正しいつなぎ方を選ぶ問題です。

問3は、電熱線に加わる電圧の大きさを問う問題です。

問4(1)は、電熱線の抵抗の大きさを問う問題です。(2)は、回路全体で消費した電力量を問う問題です。

直列回路の電流と電圧を測定する実験を行い、電流と電圧に関する規則性を見だし、抵抗のつなぎ方と回路全体の抵抗の大きさを関連付けて理解する学習が大切です。

〈まとめ〉

授業で行う観察、実験を中心に、各分野から出題しました。その際、自然科学の概念と科学の方法を用いて課題を解決する力をみるように配慮しました。また、観察、実験の結果や資料から、図や表、グラフを用いて考察する問題を出題しました。

全体の得点率は前年より0.3ポイント下がり、62.7%でした。

理科の授業において、自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験に主体的に取り組み、結果を整理し、図や表、グラフなどにまとめて考察したり、日常生活や社会と関係付けて説明したりする学習に取り組むことが大切です。

令和6年度福岡県立高等学校入学者選抜学力検査結果の概要について

英 語

「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔発表〕」、「話すこと〔やり取り〕」、「書くこと」の4技能（5領域）を高め、思考力・判断力・表現力等を身に付ける学習を繰り返し行いましょう。

問題内容・得点状況等

【英語リスニングテスト】

英語の質問に英語で適切に答えたり、必要な情報やまとまりのある英文の要点を聞き取ったりする問題です。得点率は60.9%でした。

問題1は、英語の短い質問を聞き取り、文字を介さずに適切な応答を選ぶ問題です。

問題2は、地図を見ながら、情報を正確に聞き取り、質問に答える問題です。

問題3は、2人の対話の要点を正確に聞き取り、質問に対する答えを選ぶ問題です。

問題4<問1>は、留学中に班別研修で訪れた映画博物館についての説明を聞き、館内図を見ながら概要や要点を捉え、質問に答える問題です。<問2>は、関連する質問を聞き、自分の考えを表現する問題です。

質問を素早く正確に聞き取り、即座に答える学習や、まとまりのある英文を聞きながらメモをとり、メモをもとに質問に答えたり、自分の考えを表現したりするなどの学習を行うことが大切です。

【英語筆記テスト】

1 「話すこと」に関する問題

英語による対話文を読んで、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて表現する力を問う問題です。得点率は74.7%でした。

英文の意味と文構造を理解する学習を行うだけでなく、何のために、どのような場面で、誰とコミュニケーションを行うのかを考えながら、英語でやり取りする学習を行うことが大切です。

2 「話すこと」「読むこと」「書くこと」に関する問題

英語による会話と授業の振り返りに関する記述を読んで、概要や要点を捉える力を問う問題です。町の食の歴史について調べ、ALT（外国語指導助手）の助言を参考にしながら、よりよいプレゼンテーション作成に向けて協動的に取り組むという会話の流れと、授業の振り返りの内容を読み取ります。得点率は64.0%でした。

問1は、会話の内容を正確に理解し、語と語のつながりに注意して、正しい文を完成させる問題です。

問2は、会話の内容を理解し、適切な表現を選ぶ問題です。

問3(1)は、会話と振り返りの内容を理解し、適切な表現を選ぶ問題です。

問3(2)は、会話と振り返りの概要を捉え、質問に答える問題です。

日頃から、複数の関連する英文を聞いたり、読んだりして、概要や要点を捉え、それをもとに話したり、書いたりする学習を行うことが大切です。

3 「読むこと」「書くこと」に関する問題

まとまりのある英文を読んで、概要や要点を捉える力や、読み取った内容について自分の考えを表現する力を問う問題です。自己実現に向けて、新しいことに挑戦したり、様々な人の話を聞いて参考にしたりしながら、自分の進路について考えるという英文の内容を読み取ります。得点率は57.6%でした。

問1は、英文の流れを考えて、適切な語を選ぶ問題です。

問2は、英語による質問の答えとなる部分を読み取り、英語で答える問題です。

問3は、下線部の語が示す具体的な内容を読み取り、日本語で説明する問題です。

問4は、英文の概要や要点を捉え、内容に合う文を選ぶ問題です。

問5は、英文に関連する質問について、自分の考えを表現する問題です。

日頃からまとまりのある英文を読んで、書き手が伝えようとすることや自分に必要な情報などを整理したり、メモにまとめたりする学習が重要です。また、そのメモをもとに自分が持っている知識やこれまでの経験と結び付けて、自分の考えや気持ちなどを英語で表現する学習を行うことが大切です。

4 「書くこと」に関する問題

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えが相手に正しく伝わるように、文と文のつながりに注意して、まとまりのある英文を書く力を問う問題です。

留学先で友人とメッセージのやり取りをするという場面設定で、友人から日本に行くのに8月、10月、12月のうち、どの月が一番よいかをたずねられ、その質問に対する返信を理由とともに30語以上の英語で書く問題です。得点率は50.8%でした。

日常的又は社会的な話題について自分が考えたことや感じたことを伝えるために、文と文のつながりや順序、文章の構成を意識しながら、全体として一貫性のある英文を書く学習を行うことが必要です。また、自分の考えが読み手に正しく伝わるように、理由を経験や体験と結びつけて、明確に述べたり、具体的な説明を加えたりして書く学習が大切です。

〈まとめ〉

中学生にとって身近な場面を取り上げ、基礎的・基本的な知識を活用して、英語を理解したり、自分の考えや気持ちを表現したりする問題を出題しました。全体の得点率は前年度より5.2ポイント上がり、61.2%でした。

英語でのコミュニケーション能力の一層の向上が求められる中で、「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと〔発表〕」、「話すこと〔やり取り〕」、「書くこと」の4技能（5領域）をバランスよく高めることが重要です。そのためには、語彙や表現を充実させるとともに、素早く正確に聞き取り、即座に応答する学習を行うなど、目的や場面、状況などに応じたコミュニケーションを行う学習に繰り返し取り組むことが大切です。また、自らの学習を振り返り、表現できる範囲を少しずつ広げるために、学習に粘り強く取り組むことも大切です。